



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

— 2016 年度 研修生受入事業 —
(終了時評価—2017 年 4 月)

漁船員養成（乗船）コース

研修生受入の概要

研修コース名	漁船員養成（乗船）コース
参加国及び参加人数	2 か国 10 名 (ミクロネシア連邦 8 名、パプアニューギニア独立国 2 名)
研修コース実施の経緯と背景	<p>我が国かつお・まぐろ漁業の重要な漁場である太平洋島嶼国では、自国のかつお・まぐろ資源を最大限に活用した経済発展を目指しており、その方策の一環として自国水域に入漁する外国漁船に自国民を乗船させ雇用拡大を図ろうとしている。</p> <p>一方、我が国遠洋漁船は、近年、乗組員不足に直面しており、操業の継続を図るうえで外国人乗組員が不可欠となっている。</p> <p>本研修は、ミクロネシア連邦（以下「ミクロネシア」という。）、パプアニューギニア独立国（以下「パプアニューギニア」という。）との入漁協議において、島嶼国から要望された島嶼国人乗組員の育成を行うもので、島嶼国からの研修生の「漁船乗組員としての資質向上」及び「漁撈活動に従事するための基礎能力の習得」を図ることにより、当該国の沖合・遠洋漁業の振興に貢献するとともに、我が国との漁業協定等協力関係の存続・維持を図り、漁船員不足に悩む我が国かつお・まぐろ漁業を支援することを目的として、かつお・まぐろ漁船乗組員育成のため開設したコースである。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2016 年 8 月 8 日～2017 年 2 月 7 日（184 日間）</p> <p>一般研修：8 月 8 日～9 月 28 日（52 日間） (研修場所：ニッスイマリン工業(株)能力開発センター)</p> <p>技術研修：9 月 29 日～2 月 7 日（132 日間） (研修場所：(一社)海外まき網漁業協会 まき網漁船)</p>
上位目標	関係途上国の水産業における雇用が増大する
研修目標	良質な部員クラスの漁船乗組員が育成される
成 果	まき網漁業の基本知識及び船上甲板漁撈技術が習得される

活 動	1) 一般研修 学科講義：日本語基礎会話、まき網漁業の基礎的技術理論 実技訓練：漁具取扱い実技（漁網修理、ロープ・ワイヤーの結索技術）、漁船機関及び船体保守作業実技、海難救助実技 2) 技術研修：まき網漁船での漁撈実習（漁撈技術及び漁船上の労働・生活慣習）		
	1) 財団側		
投 入	投入内容	人的投入（講師等）	物的投入（研修資材等）
	一般研修	講師 2 名 日本語講師 2 名 漁船・漁具講師 2 名	日本語テキスト、 まき網漁具実技関連資材（漁網、ロープ・ワイヤー等）、 漁船機関・船体保守実技関連資材（溶接器材、機関モデル等）
	技術研修	各実習船に 1 名の指導員	実習船に装備されている漁具、漁撈機器、航海計器類等を使用
	事業費	28 百万円	
	2) 受入対象国側 投入なし		

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

ミクロネシア及びパプアニューギニアは、かつお・まぐろ漁業の開発振興を国の重要な政策としている。

また、国内に就業の場が少ない若年層の雇用促進策の一環として、我が国の遠洋漁船（特にまき網漁船）への乗り組みを推し進めている。

本研修は、部員クラスの漁船乗組員の育成を目標としており、ミクロネシア及びパプアニューギニア政府の漁業振興政策及び若年層雇用促進施策を人材育成の観点から支援するもので、相手国のニーズに合致していた。

2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

一般研修及び技術研修内容は、まき網漁船の甲板部員に必要な知識及び甲板漁撈技術を習得させるものであり、また一般研修では、サバイバルトレーニングから船上での海難訓練も行い実施計画は妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

一般研修では、日常生活及び技術研修に必要な基礎会話の習得を目的として日本語研修を実施するとともに、船上で必要な技術研修を陸上で実施したうえで、技術研修

として、乗船実習を実施した。いずれも指導員又は研修監理員を適切に配置するなど、研修生活の実態を考慮した計画を作成した。

4. その他

特になし。

◆ 効率性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

一般研修は、日本語習得レベルに応じたクラスに分け、日本語講師を交代制で常時2名、漁撈技術等の講義と実技には、分野別の講師2名を配置した。また、研修施設は、漁船員の技術訓練に使用されているものであり、教材等も予定している各学科講義あるいは実技に対応するものを準備した。

技術研修は、かつお・まぐろを対象とする海外まき網漁船の漁撈長や士官が指導員となり、実践的な指導を行った。以上の人的及び物的投入は、計画通り実施され、期待される成果を上げた。



【研修生同志で教えながらの技術実習】

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

研修日数、講義、実習の内容と水準並びに指導方法は、これまでの経験を踏まえ、適切に計画され、実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

◆ 有効性

1. 研修目標の達成度

研修目標： 良質な部員クラスの漁船乗組員が育成される

一般研修及び技術研修を通じて、漁撈技術や漁船の船内労働慣習を習得し、まき網漁船の部員クラスの乗組員としての基礎知識と技術は十分に習得したと判断され、研修目標は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）

特になし。

◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

研修目標である良質な部員クラスの漁船乗組員の育成が達成され、ミクロネシア及びパプアニューギニアの沖合・遠洋漁船あるいは船員不足に悩む我が国かつお・まぐろ漁船に人材が供給されることにより、上位目標である関係途上国（ミクロネシア、パプアニューギニア）の水産業における雇用の増大に対し大きなインパクトを与えることができる。

2. 研修生受入事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

ミクロネシア及びパプアニューギニアにとって、まき網漁船員が育成されることは、合弁船をはじめとする大型まき網漁船への雇用機会が増えるとともに、同国の水産振興に必要な人材の育成・確保への効果が得られる。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か

研修生は、研修修了後、自国あるいは我が国の海外まき網漁船に乗り組む予定であり、習得された漁撈技術は有効に活用できる見込みである。

2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。



〔漁船員養成(乗船)コース研修開始式後記念写真〕